

みんなの広場

ぼくとわたしの



新冠小学校6年生です



私の夢は、ファッションデザイナーになることです。理由は絵をかいたりすることが好きだからです。

寺西 真生



私の夢は、動物に関わる仕事につく事です。理由は犬の動物好きで、動物とふれ合い、お世話をしたいからです。

橋本 柚稀菜



ぼくの夢は、サッカーが1番うまい人になる事です。理由はその時に、1番うまい人が自分でありたいからです。

樋山 裕



ぼくの将来の夢はゲームの達人になることです。理由はゲームが好きだからです。

華房 瞭太



ぼくの将来の夢は、馬関係の仕事につく事です。理由は、お父さんが馬の仕事をしているからです。

藤本 夕雅

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第三十一話 「新冠のチャシ跡について」

(要約文)

鎌倉時代から江戸時代までは、北海道ではアイヌ文化期と呼ばれ、北海道にアイヌ民族が多く生活していた年代として区分されています。この時代の代表的な遺跡に「チャシ跡」というものがあります。

チャシとは、アイヌ語で砦、館、柵囲いの意味があります。戦前から戦後にかけて、新冠地方では柵そのものをよく「チャシ」または「チャス」と呼んでいて、今でも古くから新冠に住んでいる方がたまにこの言葉を使います。今回紹介するチャシ跡は、地面に壕(ごう)という窪みを掘った跡のことをさし、十七世紀から十八世紀頃の蝦夷地でよく築造された代表的な遺構です。北海道では、形状として今でも確認できるものや、伝承や地名のみの概念的なものも含め、約七百万所確認されています。特に、日高、十勝、釧路、根室地方に多く分布しています。新冠町に残っているチャシ跡には次のようなものがあります。

○ピボクチャシ跡(字高江)

このチャシは、判官館森林公園の太平洋を臨む場所、いわゆる「判官岬」上に位置しています。岬の先端部に壕のような地形

がありますが、昔のアイヌ民族が掘ったものなのか、それとも自然に崩落したものなのかはつきりせず、詳しいことはわかっていません。伝承に伴うチャシ跡といえます。

○明和チャシ跡(字明和)
新冠川明和地区の河岸段丘上に位置しており、大きな半円形の壕が二つはつきりと残されています。

○万世チャシ跡(字万世)
新冠川を望む河岸段丘上に立地し、崖に面した場所に壕の窪みがあります。町内のチャシ跡では、最も行きやすい場所にあります。

○アクマップチャシ跡(字明和)
新冠川と支流のアクマップ川にはさまれた台地に立地しています。細長く延びた台地上に、三つの壕を確認できますが、足場が悪い所にあります。人を簡単に寄せ付けない、まさに「砦」といった印象があります。新冠には、各地にアイヌコタン(集落)があります。これらコタンとチャシの関係性を同時に紐解くと、より正確なるさとのアイヌ文化が明らかになるかもしれません。



明和地区に残っている「アクマップチャシ跡」の壕(地面の窪み)が確認できる

安全は日々の気持ちの積み重ね

現在お使いの電化製品などを適切に維持管理し
安全・安心な生活が送れるよう定期的な点検を
心掛けましょう。 消防署新冠支署

| 火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期 | | | |
|-------------------------|--------|------------|---------|
| 区分 | 火災件数 | 救急件数 | |
| 3年1月 | 0件(0件) | 24件(27件) | |
| 2年1~12月 | 3件(5件) | 289件(331件) | |
| 交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期 | | | |
| 区分 | 発生件数 | 死者 | 傷者 |
| 3年1月 | 0件(0件) | 0人(0人) | 0人(0人) |
| 2年1~12月 | 3件(8件) | 0人(0人) | 3人(10人) |

人のうごき

| | | |
|----|---------|-------------|
| 人口 | 5,395人 | (前月比 + 3人) |
| 男 | 2,653人 | (前月比 + 4人) |
| 女 | 2,742人 | (前月比 - 1人) |
| 世帯 | 2,757世帯 | (前月比 + 8世帯) |

(令和3年1月末現在)

「新冠の碑(いしづみ)」⑧ 『森みつ誌碑』



○森みつ誌碑 (もりみつしひ)
 建立年月日 昭和57年11月3日
 所在地 中央町(郷土資料館前庭)
 建立者 森みつ誌碑建立実行委員会
 高さ 2.3m

「森みつ」は、昭和27年から新冠に住し、女流詩人として活躍した人物です。「北海道賛歌」の作詩に入選し、一躍脚光を浴びました。昭和47年に生涯を終えました。その功績を讃える詩碑を建立し、盛大な除幕式が行われました。これを契機に新冠文芸協会が発足、また、次代を担う青少年の文学への関心を培うため、優秀な作文を表彰する「森みつ少年少女文芸賞」が今でも行われています。森みつのたゆまぬ文学精神が、時を経た現代においても受け継がれています。

※今月号に文芸賞の受賞者が掲載されています。